

新春鼎談



「日本高市丸」いざ、出航の時！

安倍晋三内閣が退陣してから早5年、我々が待ちに待った時が訪れた。

安倍氏の志・理念を最も継承している一人である、高市早苗氏がいよいよ第104代内閣総理大臣に就任した。

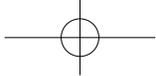
しかし、日本国内外の情勢は大変厳しい中にあり、この難局を高市政権はどう乗り越えていくのか。年頭にあたり、高市氏をよく知る三人が今後の展望を語る。



■日本を取り戻す使命を担う高市首相

高池 あけましておめでとうございます。高市早苗内閣が誕生して、何か世の中が明るくなった感じがしますけど、内閣の今後の動向などについて、山田先生、加藤さんからお話をうかがいます。よろしくお願ひします。

山田 これまでの総理は、総理大臣になんたくて政治家になった人たちが多かったと思うんです。ですので、なった途端にもう完全に守りに入ってしまった、何をやりたいたいのが見えなくなるんですけれども、高市さんの場合は、とにかくいっぱい勉強して自分の中で消化をして、「これをやらなきゃ」っていうのをいっぱいため込んで、満を持して総理になられているんです。だからご本人は「働いて働いて」というように、とにかくやりたいことが満載で、次から次へとやらないと気が済まないんですね。問題が起きたら全部それが自分の中にストンと落ちないと行動ができない人なんです。国民がそういう総理の姿をテレビで見ながら、非常に共感を持って迎えてもらっているように感じます。誰が見ても、まっす



ぐでチャレンジングでしかもお茶目で、という彼女の性格がテレビから伝わってくる、前の方とのコントラストがはつきりしてきているということかと思えます。

そういう部分でいいスタートは切っておりますが、昨今の外交問題ですね。これはもう日本全体、いや世界と言ってもいいんですけれども、大きな転換期の中にある摩擦です。なので、中国にも中国の戦略がある中でやっているのです、ここは上手にハンドリングをしていく必要がありますね。高市内閣はいわば、歴史から要請されて登場した内閣だと思えます。

そういう意味では、これまでの日本が戦後、戦後レジームをある程度引きずってきたものを、正式にきちっと根本から脱却をしていく。さらにその先にある国家としての日本を取り戻していく。その大きな使命を高市さんが負っているということを、中国との騒動を見ても感じております。

今後そういった意味で、国家としては日本を取り戻していく憲法改正、また皇室典範の改正から始まって、拉致被害者の奪還、さらには中国に対しても力を背景にした外交、台湾海峡の平和、世界中が求めること

をきちっと主張し、国民に訴え、そして前に進めていく。そういった時代が始まったと思うので、いろいろと問題が出てきても、おそらく高市早苗という人は上手にコントロールしていくんだろうと、楽観しています。

高池 加藤さんはどういう風にご覧になっていますか。

■国家観を表現する土壌ができた

加藤 本当に高市さんは総理になるために生まれてきたような方ですね。ですから、ずっと国家観というもの、「自分が総理になったらこうしたい」というもののため込んでいて、勉強して勉強して勉強して(笑)、今に至っていると思うんです。まず昨年の自民党総裁選の時点で、全てのメディアが、高市さんが総裁になることを誰も予測しなかったわけですよ。その中であつと驚くどんでん返しのドラマがあつて、高市総裁が生まれたわけです。それから今度は維新の会と自民党の自維連立という、30年ぶりの保守改革政権が誕生したわけですよ。そういう面では、高市さんの国家観、ビジョンを実現するのにふさわしい

土壌と環境ができたといっても過言ではないと思っっているんです。

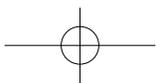
高池 そうですね。確かに少数与党ではあるけれども、連立内閣というのが今、世界的にどこも連立内閣が多くなっていますよね。これは一種の風潮ですね。僕は単独内閣よりも連立の方がいいと思うんです。

加藤 私もそう思います。

高池 国民の理解を得るにもですね。具体的な政策については、加藤さんはどういうことを希望されていますか。

■国民の不満に応える経済政策

加藤 やっぱり国民が一番期待しているのは経済政策です。申し訳ないけど前内閣の時には、経済停滞が続いたなかで、増税一本やりでした。物価も上がり、税金も上がる。まさしく「民のかまどに煙が立たない」とつていう、そういう政策が続いていたじゃないですか。自民党税調の宮沢洋一前会長が当時テレビ画面に出てくるたびに、結局、自民党は増税しか頭にないんじゃないかと思うわけです。我々の未来はもう経済停滞と重税感の中で苦しむんじゃないかという、働いても働いても給料が上がらないという、



若者たちの不満があったわけですよ。どうなるかと心配してましたけれど、この内閣の顔ぶれを見ても、豪腕な方も財務大臣にいらつしやるし(笑)、以前は「財源はどこだ」なんて色々言われていたのに、

コロッと変わってガソリン税の暫定税率も廃止になるじゃないですか。50年間ずっと取られてた税金をやつとやめようというところまでいくわけですよ。補助金はその分なくなるから、すごく下がるといふことにはならないかもしれないけれど、有言実行ですよ。素晴らしいです。それから今までにないような大型の補正予算で、それもどういふ経済効果を見込めるのか、非常に楽しみです。ね。

外交でも、私はアメリカのニュースだけじゃなくて、インド、ポーランド、アラブ、ドイツなどいろいろいるところのニュースを見るのですが、そうすると、高市さんのニュースが本当に多いんです。別に女性だからというのじゃなくて非常に高く評価されています。

■中国の恫喝に翻弄されるのは一部だけ

高池 そうですね。その天の時、地の利かどうか、外交関係においても今おっしゃったようにちよいどいいタイミングだと思います。たまたま今、中国が高市総理の国会での答弁に対して、色々やってきている

でしょう。あれも日本にとって悪くないと思っんですよ。特に中国を挑発したわけじゃないのに、逆に中国のほうからなんかすごいことをやりだして、これは何か中国にとつてまづいことがあったということですよ。だから突然あいうことになって。日本国や日本人に大したダメージを与えないにもかかわらず、これを大打撃のように言うマスコミはひどいですよね。

加藤 オールドメディアね。相変わらずです。

高池 逆にネットではすごいらしいですね、高市擁護で盛り上がっていると。

加藤 92%が「台湾有事発言」を「絶対に撤回するな」となっていますね。「絶対ブレるな」というのが国民の声ですよ。だから中国の恫喝に相変わらず翻弄され続けているのはオールドメディアと一部の左翼的な人だけなんです。

高池 高市さんの言ったことは別に挑発し

ただけではなくて、当たり前のことを言っただけですからね。

加藤 だから立憲の岡田克也議員がわざわざ総理を引つ掛けるような質問をしたと、逆に岡田議員に対してネットが炎上しています。これはすごいですね。世界中の議会で、仮定の議論をしないということはないんですよ。この問題というのは将来的にも絶対に避けて通れませんか。しかし普通に仮定の議論をすることに対し、中国は逆に騒ぎ立てて恫喝し、世論を煽りますが、それに翻弄されてはいけません。

中国は世界中でも同じような恫喝を繰り返しています。それに対して、世界各国のリーダーがどのように対応したかというところ、どの国もちゃんと、中国の恫喝には粛々淡々と、へつらうことなく自分の意思を曲げることなく対応していますよ。リトアニアだろうがフィリピンだろうが。

高池 高市さんは国会でもすごくよく答弁されていますね。

山田 そりゃそうですね。だって彼女に国会議員が答弁の質問項目を出して、それについて想定問答を担当省庁の役人が作るんです。総理からはもう全部に赤(修正)



が入って戻ってくる。

加藤 本当に？ すごいですね。

山田 全部赤を入れて戻ってくるので、かえって大変なんです。だけど、ここまでこだわるので、本人も全部丹念に読んで、「これダメ、これダメ」って言って。こんな総理大臣は多分なかったと思うんですね。

加藤 すごいですね。

山田 すごいです。だからショートスリーパーなんです。だからショートスリーパーなんです。

加藤 だけど、私は心配だな。体がもつかどうかね。

高池 そこだけは僕も心配ですよ。

山田 僕はだいたい十時半ぐらいで寝ちゃうんですけど、朝起きたら総理からメールが入っていて、何時に出してらんだと思っ



■山田 宏（やまだ・ひろし）

自由民主党参議院議員

昭和33年 東京都八王子市生まれ。京都大学法学部卒業。松下政経塾第2期生。現在、参議院副幹事長、政務調査会厚生労働部会会長代理・日本の名誉と信頼を確立するための特命委員会委員長、組織運動本部労働関係団体委員会委員長、厚生労働委員会委員、北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員会委員、朝日大学歯学部 客員教授。元防衛大臣政務官兼内閣府大臣政務官、元衆議院議員、元杉並区長。杉並区長時代の平成17年に『新しい歴史教科書』『新しい公民教科書』を採択。座右の銘：前人木を植え、後人涼を楽しむ。趣味：ダイビング。

たら一時半とか。

高池 大丈夫かな。

加藤 メッセージは結構すぐに返ってくるんですよ。私はピンチの時しかメッセージを送らないんですが。元気づけるためのメッセージなのに、返ってくるんですね。だから私のはこうスツと、流してほしいと思うんだけど、ちゃんと読んでね。まあ、でも本当に寝てないですよ。

高池 懸案の憲法改正や拉致とか、そういうあたりの問題はどうでしょう。物価問題は先ほど加藤さんからお話がありましたけど。

■憲法改正は九条が「一丁目一番地」

山田 憲法改正は国会で三分の二の賛成が

ないとスタートできませんから、まずは自

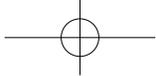
民党は改正について同じような考えの維新などと連携して起草委員会を起動させて、粛々と動かしていくことが大事です。また、早めに総選挙をやって、安定的な多数を確保することが必要ですね。足場がしっかり揺らがなくなれば、野党、というか他国に乗ぜられることもないわけですから。その状況を元にして、拉致の問題も、憲法の問題も高市政権の時に解決したいことです。彼女は特に九条の改正にこだわっていますので、やっぱり九条を変えたいですね。私も憲法改正は九条が一丁目一番地で、九条を外した改正なんて意味がないと思っています。

■保守系野党が強い間に改正を

加藤 私は保守系の野党が強い間に憲法改正を保守系野党主導でやったほうが良いものができると思います。

高池 僕もそう思う。

加藤 だからそこはちょっと山田先生と考えが違って、高市さんの落選している応援団をすぐに取り戻して、活躍してもらいたい気持ちは痛いほどわかるんだけど、



■加藤 康子 (かとう・こうこ)

内閣官房参与

昭和34年東京都生まれ。慶應義塾大学文学部卒業。国際会議通訳を経て、米国CBSニュース東京支社に勤務。ハーバードケネディスクール大学院都市経済学修士課程(MCRP)を修了後、日本にて起業。国内外の企業城下町の産業遺産研究に取り組む。産業遺産情報センターセンター長。一般財団法人産業遺産国民会議専務理事。国家基本問題研究所理事。第三次安倍晋三内閣内閣官房産業PT。「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会コーディネーター。山本作兵衛ユネスコ世界記憶遺産プロジェクトコーディネーター。端島護岸部会部会長などを務める。

高市さんの支持層ばかりが帰ってくるわけじゃないですから。保守系野党が引っ張っていったほうが、日本の国としては憲法改正もしやすいと思います。

高池 維新と国民民主で、そこに参政党や日本保守党もありますよね。

山田 それをやるためにも、自民党が過半数、安定多数を確保していないと、野党はバラバラになりやすいですね。保守党と参政党を見ても、決して仲がいいわけでもないですよ。憲法改正は問題ないんですけど、それだけで政治が進んでるわけじゃないので、まず自民党がガッチリ政治基盤を安定させていかないとなかなか難しいと考えます。

加藤 ただ自民党も何十年間もずっと政権

の座にいたにも関わらず、憲法改正ができていないわけだから。自民党が安定多数の時に、いつもできていないわけですよ。だから私は、今がタイミング的には悪くないと思います。

■バランスのとれた高市内閣の布陣

高池 山田先生は今回は入閣されなかったんですけど、今の内閣の構成はどう見られていますか。

山田 高市総理が組閣でこだわったのは片山さつき財務相や小野田紀美経済安保相、この辺だと思えます。あとは大体バランスを取った人事ですから。石破内閣はお友達でできた内閣でしたけれども、高市内閣は敵も味方も全部入っもらうというやり方

です。そういった意味でバランスの取れた布陣になっています。彼女が優先したいところを、官房長官も含めて意見を通しやすい布陣にしているので、なかなかいいと思います。小泉進次郎防衛相もよかったです。

加藤 私もよかったですと思います。

高池 そうですね。総裁選をやっている時と比べると、見違えるようになった。

加藤 まさしく覚醒していますね。すごく小泉さんらしさを出していますね。

山田 よかったですよ。防衛みたいな難しい問題は、これからは防衛力増強で新しい分野に踏み込んでいくときに、彼のそういうコミュニケーション能力というのは、絶対に防衛大臣にふさわしいですよ。

加藤 ふさわしいね。私もそれはすごく思いますよ。ふわっと総括的な話をしてから入るじゃないですか。いいですよ。それは私もつくづく思いますね。

■教育正常化に向けた体制を

高池 それから、今日は「つくる会」の座談会ですから教科書問題についても少し。近々学習指導要領が改訂になりますけど、こ

のあたりの情報は何かありますか。

山田 いえ、まだ入っていないですけども、総理大臣が高市さんになられたわけですから、きちんと内閣の考え方に沿った形で、バランスの取れたまともな人を配置していく必要がありますね。

高池 教育基本法は、安倍内閣で初めて改正したんですね。

山田 法律は変わったんですけど、それを実施する体制が課題です。リベラルな人とかちよつとイデオロギーに染まっている人が一部入っているの、ここをちゃんと正常化する必要があると思います。

高池 松本洋平文科大臣についてはどうですか。従来より「つくる会」にはとても理解を示してくれています。

山田 安倍さんの系統でもあるし、真ん中より保守側ですね。

高池 先日、政務官に就任された福田おける議員にもお会いしましたが、この方も勉強されて、なかなかいいことを仰っていました。

■中国の言動を奇貨として総選挙を

高池 ところで、近々に衆議院選挙はある

んですか。

山田 分かりませんが、この『史』の出る頃（1月）にはもう解散されているかもしれないし、いろんな説があります。これはみんなが話し合って決める話じゃないですから、最後は総理の勘でやるしかないんですよ。私なんかは早期解散をやるべきだと言うし、萩生田光一幹事長代行なんかは自民党の支持率がまだ上がっていないので危険だと言う。

加藤 高市さんの人気でどれだけ自民党の票を引っ張れるかというのは分からないですよ。

山田 ただ衆議院選挙は小選挙区中心で、政権選択の選挙となるので、候補者が多く出ている選挙区では「高市を選ぶか野田を選ぶか」といった感じで、そういう結果になってくるので比較的戦いやすいです。ただ、そこに参政党などが出てくると自民党の票を食っちゃうので、その辺がやっぱり自民党には一番難しいところだと思います。逆に国民民主も出てくると、相対的には自民党が有利と見えますけれども。まあ参政党も結構出てくるでしょうから、保守の票が自民党に来るのか、参政党に行っちゃう

のか、ですね。

僕は今までの政権は早期で支持率の高い時に選挙をしなかったために、麻生さんも菅さんもみんな一年で終わっちゃったわけだから、ここはちょうど中国がああいう形でギヤーギヤー言ってくれているのを奇貨として基盤を固めてしまったほうが賢いかなと思っています。けれども総理本人は解散については何も言わないですよ。

加藤 今は確かに上げ潮だからやりたくないでしょうね、総理だったら。

高池 選挙をして自民党が増えれば中国は黙りますよね。高市をやっつけようと思つて、今大騒ぎしているわけですから。

山田 いえ、そんなことはないでしょう。自民党は親中派議員も多いから。自民が勝つたらまた違ったことでやってくると思う。中国は思いつきでやっていないと僕は見えています。十分な戦略のもとでここまで来ているので。

加藤 日本側は絶対あの発言を撤回できないし、中国側も振り上げた拳を下ろせないですよ。これはもう目に見えて分かります。だって台湾有事で、米軍が出て行って、攻撃されて応戦したら、日本も日米の軍事同



盟でまさしく応戦しなきゃいけないくなるわけですよ。発言を撤回したら、逆に集団的自衛権の行使でアメリカを支援しないのかという事になりますよ。その時に沖縄の宮古島とか与那国島とか、隣接する離島に撃ち込まれたら、国民の生命と財産を守るために、防衛のための反撃をしなければならぬ。そんなことは当たり前で、絶対に撤回できませんよ。

高池 できないですよ。だって集団的自衛権を安倍さんの時に認めたのはアメリカの支援のためでしょう。別に他の国の支援のためじゃない。

加藤 中国としては、米軍と戦った時に日本がアメリカに加勢して応援してもらいたくないわけだからね。だからもうそこは引かないでしょう。

高池 ほかに今の内閣の抱える課題や気になることはありますか。

■ 円安の為替介入への心配

加藤 私がちょっと心配しているのは、片山さんが最近、円安の為替に日米で介入するような可能性を示唆する発言があったんです。為替に介入すると、まさしくプラザ

合意みたいになりますからね。絶対に大変なことになるから介入しちゃダメですよ。

高池 円安がかなり進んでいますね。

加藤 たとえ進んでいたとしても、日本の失われた三十年というのは、為替を触ったところから始まったわけだから、絶対に触っちゃいけないですよ。思うつぼです。だから絶対ダメです。あのときは介入したことで急速に円高に振れて企業が立ち行かなくなりました。今の日本はただでさえ、もうエネルギー事情も良くありません。今、中国からどんどん日本企業が引き上げているんです。引き上げている先は日本とインドなんですけど、日本は労働力がない、エネルギーが十分じゃないというところで、なかなか生産設備というのを拡張できないわけです。でも円安だから日本に戻ってきているわけです。それを為替介入により、急に円高にふられたら、日本経済は一発でやられますよ。

高池 加藤さんはエネルギー問題の専門家だからそのあたりは詳しいですね。

加藤 原発の問題はちゃんとしなきゃいけないけれども、東電の柏崎刈羽も再稼働です。ひよっとしたら北海道の泊も再稼働に

行くんじゃないですか。これはもう日本の製造業にとっては明るいですよ。

高池 エネルギー問題で、太陽光とか洋上を保護しているわけですが、あれを今の内閣でもっと削減してもらいたいですね。

■ 行きすぎた脱炭素を変えてほしい

加藤 行き過ぎた脱炭素を本当に変えないと大変になります。例えば今、鉄を高炉から電炉にするのに、ものすごく予算を使うわけです。例えば日本製鉄の八幡で高炉から電炉になったら一千二百人ぐらい雇用調整になるんです。高炉というのは鉄鉱石から還元して鉄を作るんです。でも電炉というのはスクラップを溶かすわけです。高炉では自動車鋼板用の高級鋼ができるんですよ。だけど電炉ではできないんです。それだけでなく、町工場が集めているスクラップが、町からなくなるわけです。だから日本で、例えば大手鉄鋼メーカーが電炉にすると、それが全部いい品質のスクラップは取っちゃうわけです。そうすると、日本のものづくりをやっている町工場は、全部干上がるんです。だから、私はそれだけはやめてもらいたいと思う。なぜかというと、

鑄物工場が全部なくなってしまうから。そうすると自動車部品を作っている工場が全部なくなるんですよ。自動車が日本で作れなくなる。

高池 原発の新造、新しく造るのは。

加藤 それですよ、素晴らしいですよ。だって二〇四〇年代には、電力が足りなくなりませんか。今稼働している原発の多くが六十年の寿命を迎えるでしょう。そうすると、廃炉になるのを新しい原子炉で補っていかないと、電力が足りなくなります。ただ原発の新増設には二十年、三十年かかるわけですから。急がなければなりません。高池 電力が一番重要ですよ。

加藤 そういう点で、高市さんは経済成長を考えているから、現実論者だと思うんですよ。働き方改革も柔軟に運用するだろうし、それを進めるだろうし、現場の声をちゃんと聞き取ってくれるだろうし。だから、そこら辺のところは割とポジティブに楽観的に考えてます。

山田 そうでしょうね。そういう方向でやっていると思います。

■「明治の日」制定へ

高池 それから「明治の日」ですけど、若干進歩があったんですね。

山田 ええ。昨年に自民党の内閣第一部会で法案の審査が行われてそこは了承を受けたので、自民党内ではそれでもう決定となつて、維新のほうも藤田共同代表と話したら了承という方向でいきますということなので。こういうところはいいんです。あと参政党、日本保守党、国民民主党も問題ないんだけど、やはり立憲と公明ですね。一応野田代表も斉藤代表も議連の顧問には入ってくれているんだけど、足元には賛否両論いるから、本当に党内で了承を取ってくれるのかどうか心許ない。

だから「明治の日」は、今年の通常国会に提出できるように各党に今呼びかけて、党内手続きを進めてもらいます。今年、昭和百年の式典があるので、内閣府がその説明にきた際、「明治の日」推進協議会のほうにあいさつのお電話して、何人かご招待というか動員してもらってくださいよとお願ひしました。内閣府から多分あいさつまわりに行っていると思います。

今年、昭和百年なので、昭和という時代は戦前戦後と分断をされた見方をしがちな

ので、11月3日を明治の日であり文化の日であるということではつなげば、昭和の百年を分断させない意味が生まれるから、今年はずいぶん成立させたいという話をしています。高池 今日は色々話を伺うことができた。今後とも「つくる会」へのご協力よろしくお願ひいたします。

令和7年11月21日 都内にて収録

文責・編集部

開催報告

〈高市早苗総裁就任記念国民の集い〉

昨年10月3日の自民党総裁選挙において高市早苗新総裁が誕生したことを祝う国民の集いが、各班指名前日の10月20日、東京・星陵会館で開催されました。最大400名の会場が満席となる中、高市先生を長く支持されてきた言論人の方々が、翌日の総理誕生を前に祝辞とともに熱い期待を述べられました。

集会には多数の自民党国会議員に加え、日本維新の会、日本保守党の国会議員もご出席いただきました。

本集会の事務局を務めた「つくる会」としても盛会となりましたことに改めて心より御礼申し上げます。

集会の様子は「つくる会CH」で〈ダイジェスト版〉をご覧いただけます（下のQRコードより）。

